スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

岐阜県 下呂市

自 治 体 名 ： 岐阜県下呂市
担 当 課 名 ： 下呂市教育委員会　学校教育課
電 話 番 号 ： ０５７６-５２-４８００

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	851 ㎢
人口	28,906 人
公立中学校数	6 校
公立中学校生徒数	764 人
部活動数	42 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

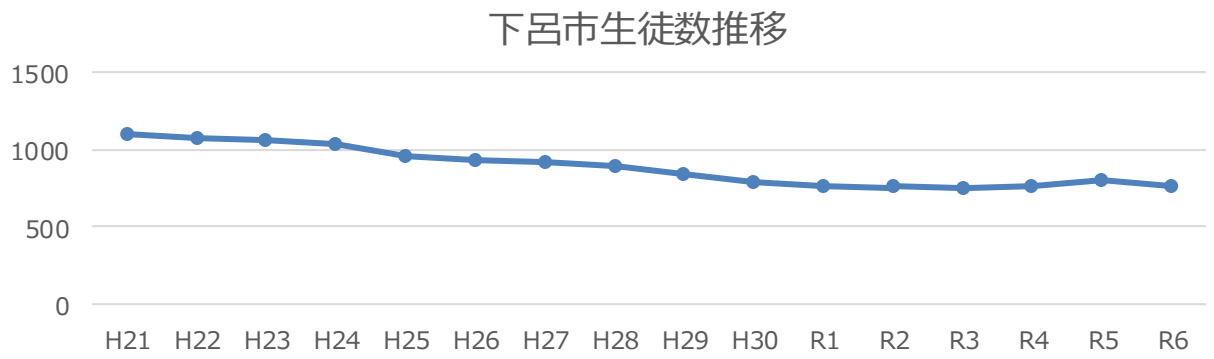
下呂市では、令和６年度より、下呂市が母体となった休日における部活動地域展開を全面実施した。現状の課題については、大きく２つある。

１つ目は、クラブ指導者の安定した確保とその謝金の確保である。令和６年度、市内中学校４２部活に対し、指導者数は７８名でスタートした。また、指導１回につき２，０００円の謝金を設定し、取り組むこととした。

土日の部活動地域展開における指導者については、指導にやりがいを感じている教職員及び地域の社会人指導者での運営とした。持続可能な地域クラブとして存続するためには、安定的な指導者の確保が必要となっている。

２つ目の課題は、学校間における生徒の移動手段及び交通費である。

下呂市においても、生徒の減少は顕著に表れている。４町１村の統合の年（平成１６年）から生徒数は１１６０人から７６４人に減少している。市内に点在する中学校単独では、部ごとの人数が少なく活動が成り立たないため、拠点校を中心とする合同での活動をする必要があった。その際、生徒が移動するための費用が大きな課題となっている。



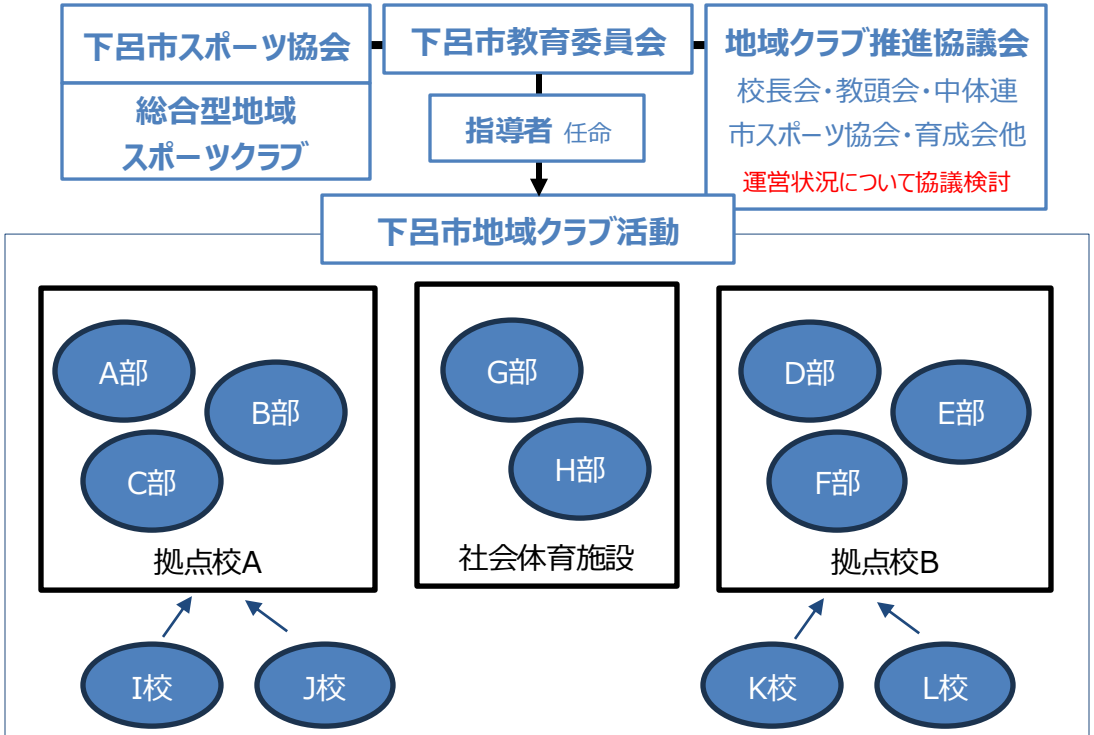
下呂市教育委員会 調べ

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉下呂市教育委員会

・学校教育課…指導者の任命、学校や中体連、下呂市スポーツ協会等との連絡調整
・教育総務課…予算措置

◉首長部局

・まちづくり推進課…中学生部活動地域クラブ活動の施設環境整備等

年間の事業スケジュール

令和６年４月	下呂市中学生部活動地域クラブの実施
令和６年７月	第１回クラブ指導者研修会・交流会の開催
令和６年１０月	第１回協議会の開催
令和６年１１月	第２回クラブ指導者研修会・交流会の開催
令和７年２月	第３回クラブ指導者研修会・交流会の開催
令和７年３月	第２回協議会の開催

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	６校	実施した地域クラブ総数	２５クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		２５クラブ（４２ 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		０クラブ
全体の指導者数	７８人	全体の運営スタッフ数	１人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
小坂中 女子バレー	下呂市 教委	バレーボール	月４回	土曜日 8:30- 11:30	１年７名 ２年２名 ３年７名	令和６年度	小坂中体育館	２人	０人	なし	中体連：部活動
萩原北中 女子バレー	下呂市 教委	バレーボール	月４回	土曜日 8:30- 11:30	１年２名 ２年４名 ３年５名	令和６年度	萩原北中体育館	２人	０人	なし	中体連：部活動
萩原南中 女子バレー	下呂市 教委	バレーボール	月４回	土曜日 8:30- 11:30	１年４名 ２年２名 ３年５名	令和６年度	萩原南中体育館	２人	０人	なし	中体連：部活動
下呂市 男子バレー	下呂市 教委	バレーボール	月４回	土曜日 8:30- 11:30	１年８名 ２年５名 ３年３名	令和６年度	萩原南中体育館	５人	０人	なし	中体連：クラブ
下呂・竹原 女子バレー	下呂市 教委	バレーボール	月４回	土曜日 8:30- 11:30	１年１１名 ２年４名 ３年６名	令和６年度	下呂中体育館	４人	０人	なし	中体連：部活動
金山中 女子バレー	下呂市 教委	バレーボール	月４回	土曜日 8:30- 11:30	１年６名 ２年７名 ３年６名	令和６年度	金山中体育館	２人	０人	なし	中体連：部活動

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
下呂市陸上競技	下呂市教委	陸上競技	月４回	土曜日 8:30- 11:30	１年１６名 ２年２４名 ３年３８名	令和６年度	下呂中グラウンド	１０人	０人	なし	中体連：部活動
下呂NORTH男子	下呂市教委	バスケットボール	月４回	土曜日 8:30- 11:30	１年８名 ２年９名 ３年５名	令和６年度	萩原南中体育館	４人	０人	なし	中体連：クラブ
下呂NORTH女子	下呂市教委	バスケットボール	月４回	土曜日 8:30- 11:30	１年２名 ２年１３名 ３年２名	令和６年度	萩原南中体育館	３人	０人	なし	中体連：クラブ
下呂・竹原男子バスケ	下呂市教委	バスケットボール	月４回	土曜日 8:30- 11:30	１年５名 ２年９名 ３年５名	令和６年度	下呂中体育館	２人	０人	なし	中体連：クラブ
下呂・竹原・金山女子バスケ	下呂市教委	バスケットボール	月４回	土曜日 8:30- 11:30	１年６名 ２年８名 ３年６名	令和６年度	下呂中体育館	２人	０人	なし	中体連：部活動
金山中男子バスケ	下呂市教委	バスケットボール	月４回	土曜日 8:30- 11:30	１年５名 ２年７名 ３年３名	令和６年度	金山中体育館	２人	０人	なし	中体連：部活動
萩原BBC	下呂市教委	軟式野球	月４回	土曜日 8:30- 11:30	１年１１名 ２年１２名 ３年１５名	令和６年度	萩原南中グラウンド	４人	０人	なし	中体連：クラブ
下呂BBC	下呂市教委	軟式野球	月４回	土曜日 8:30- 11:30	１年１４名 ２年３名 ３年１２名	令和６年度	つつじヶ丘野球場	４人	０人	なし	中体連：クラブ
小坂・萩原北男子テニス	下呂市教委	ソフトテニス	月４回	土曜日 8:30- 11:30	１年９名 ２年３名 ３年７名	令和６年度	小坂中テニスコート	５人	０人	なし	中体連：部活動

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
萩原南中男子テニス	下呂市教委	ソフトテニス	月４回	土曜日 8:30-11:30	１年７名 ２年６名 ３年４名	令和６年度	あさぎりテニスコート	２人	０人	なし	中体連：部活動
萩原南中女子テニス	下呂市教委	ソフトテニス	月４回	土曜日 8:30-11:30	１年７名 ２年５名 ３年６名	令和６年度	あさぎりテニスコート	２人	０人	なし	中体連：部活動
下呂・金山男子テニス	下呂市教委	ソフトテニス	月４回	土曜日 8:30-11:30	１年１１名 ２年７名 ３年１４名	令和６年度	下呂中テニスコート	３人	０人	なし	中体連：部活動
下呂・金山女子テニス	下呂市教委	ソフトテニス	月４回	土曜日 8:30-11:30	１年８名 ２年７名 ３年１５名	令和６年度	下呂中テニスコート	２人	０人	なし	中体連：部活動
小坂・萩原北女子テニス	下呂市教委	ソフトテニス	月４回	土曜日 8:30-11:30	１年１０名 ２年６名 ３年６名	令和６年度	小坂中テニスコート	２人	０人	なし	中体連：部活動
下呂剣友会	下呂市教委	剣道	月４回	土曜日 8:30-11:30	１年２名 ２年１２名 ３年５名	令和６年度	下呂中体育館	６人	０人	なし	中体連：クラブ
萩原北中卓球	下呂市教委	卓球	月４回	土曜日 8:30-11:30	１年１名 ２年８名 ３年１１名	令和６年度	萩原北中体育館	２人	０人	なし	中体連：部活動
萩原南中卓球	下呂市教委	卓球	月４回	土曜日 8:30-11:30	１年６名 ２年８名 ３年５名	令和６年度	萩原南中体育館	２人	０人	なし	中体連：部活動
下呂中卓球	下呂市教委	卓球	月４回	土曜日 8:30-11:30	１年６名 ２年５名 ３年１名	令和６年度	下呂中卓球場	２人	０人	なし	中体連：部活動

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
竹原中 卓球	下呂市 教委	卓球	月４回	土曜日 8:30- 11:30	１年１１名 ２年６名 ３年１０名	令和６年度	竹原中体育館	２人	０人	なし	中体連：部活動

2.実証内容と成果

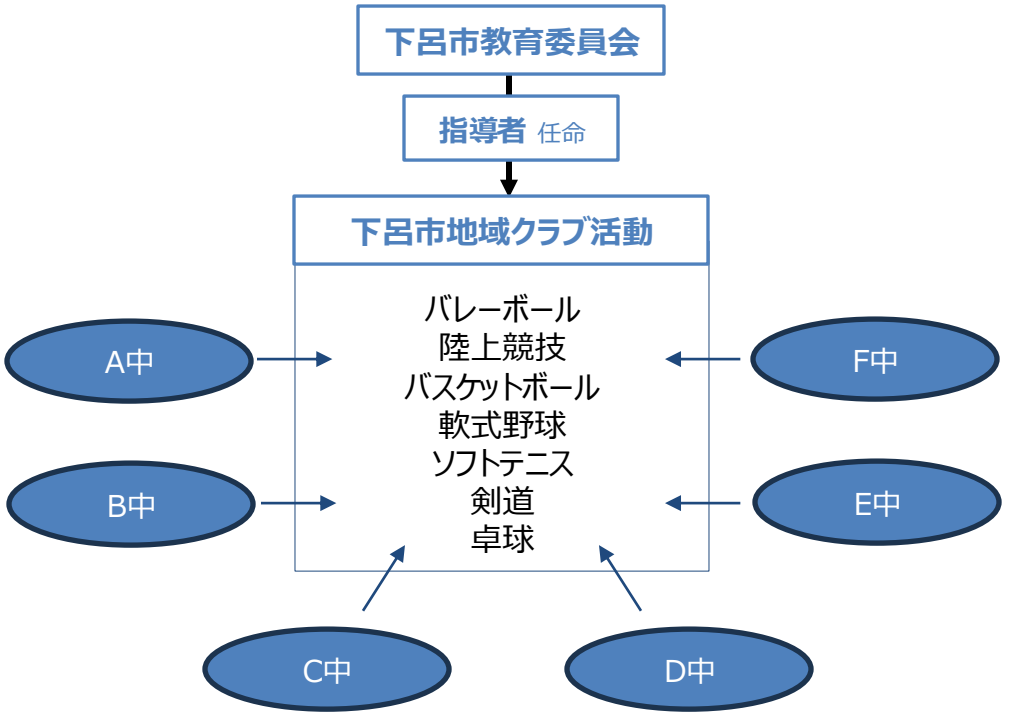
スポーツ庁

主な取組例

●下呂市中学生部活動地域クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール、陸上競技、バスケットボール、軟式野球、ソフトテニス、剣道、卓球
運営団体名	下呂市教育委員会
期間と日数	４月１日～３月３１日 土曜日、月４回程度
指導者の主な属性	小中学校教員、社会人指導者
活動場所	拠点校、各体育施設
主な移動手段	スクールバス、公共交通機関
１人あたりの参加会費等（年額）	０円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：４８０円/年（市で補助） 指導者：９９，７４０円/円（団体）

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●クラブ指導者

役割：各クラブ活動における指導、会場確保、大会申し込み等を行う

●事務局（下呂市教育委員会）

役割：運営状況全体把握、指導者研修会開催、実績報告書作成等を行う

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

指導者研修の内容・参加実績

・開催日：令和６年７月３０日

・参加人数：７２名（クラブ指導者、下呂市スポーツ協会関係者、学校関係者など）

パリパラリンピック パラトライアスロン日本代表強化リーダー 富川理充氏より「日本代表選手におけるコーチングのポイント」を演題とした講演会を実施した。日本のトップ選手指導の具体を知る中で、中学生期に必要な指導ポイントは何かを検討する機会となることを目的とした。本講演会後は、同競技の指導者が集まり、指導ポイントや重点の明確化、今後の始動スケジュール等々、連携を図る交流会を実施することができた。

受講者の声

- 科学的根拠をもとに、指導をアップデートしている姿をお話しいただけたおかげで、普段の練習でもどのように改善させていくのか考えるきっかけになりました。
- 自立した競技者に育てるためにも、考える力を育成できる関わり方ができるよう、自分自身も学び続けていきたいと思います。
- 自分自身が現役だったころの練習方法が必ずしも有効ではないため、その子に会った練習を見つけられるようにしていきたいと思います。

受講者の声

- 私が一番自分の中で納得できたことは、「これまで自分が受けてきた指導を否定し、科学的根拠をもとに今後の指導をしていく」ということです。自分が受けてきた指導はもちろん良いものだったと感じているし、指導してくださった先生方には本当に感謝しています。しかし、レベルも変化している中で、同じようには指導はできないと感じていました。そう感じるのは２つ要因がありました。１つ目は、自分の指導レベルが高い水準と言えないことです。私が憧れた先生方と同じように指導することはできないと感じています。もう１つの要因は、科学の進歩、道具の進歩、競技者の変化、社会的に求められていることの変化です。この２つの要因から、これまで受けてきた指導を自分がするのは無理だと思っていました。富川先生のお話をお聞きさせていただき、自分で深く納得できたこの部分は、今後の自分の指導の糧としていきたいです。私自身もスポーツを科学的に学んだ経験があるので、根拠のある新しい自分なりの指導をしていきたいと思いました。
- 選手を見る視点がよく分かりました。今後生徒を指導する際に生かしたいです。
- 質問にも出ていた「切りかえ」については、指導者自身が切り替えることを大切にするべきだと思いました。試行錯誤しながらより良い方法を見つけたいと思いました。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容・参加実績

・開催日：令和６年１１月１８日
・参加人数：６７名（クラブ指導者、下呂市スポーツ協会関係者、学校関係者など）

プロアスリートもサポートしている株式会社キーマイン代表 長峯誠 氏を講師に迎え、指導者向けの「食育&遺伝子栄養セミナー」を開催した。中学生期における栄養面の重要性や、練習直後の捕食の効果等について、科学的根拠や実例を示しながらの説明を聞くことができた。指導者は、栄養面だけでなく休養やリカバリーについても改めてその重要性を自覚することができた。



受講者の声

- 栄養学や食事の大切さについて改めて確認することができました。これまでは栄養や食事、休養について指導することは少なかったですが、今後はリカバリーについても目を向けて行きたいです。また東海大会などに行くと静岡、愛知の中学生と下呂市の中学生を比べると、下呂市の生徒は小さいと感じます。体づくりをした上でトレーニングを充実させていくという考え方にシフトして行きたいと思いました。
- 非常に魅力的な研修でした。スポーツは、科学的に分析することで、生徒にとってより効果的かつ効率的なトレーニングができることがわかりました。
- 食事は子どもたちの成長にとって大切なものであることが講師の方の説明や事例によってよくわかりました。しかし、運動をしている子にしかスポットライトが当たっていないと感じました。ぜひ、文化的な活動をしている子どもにもスポットライトを当てていただきたいなと感じました。
- 目的の重要性を再認識しました。納得して取り組ませることが継続に繋がることは経験的に知ってはいたものの、指導の中でもっと強く押していきたいです。
- 教育活動と同様に目的を明確にし、様々な手段を施すことが大切だと再確認できた。指導者、保護者、選手が三位一体となり、指導を行っていきたい。指導観を大きくかえる貴重な経験になりました。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

○拠点校については、近隣中学校から移動時間が長くとも３０分程度で移動可能である学校で合同部活動が実施できるよう配慮した。

○近隣中学校でも人数が揃わないなどの現状がある部は、保護者の意向等を受け、市内で１つのクラブチームを立ち上げた（下呂市男子バレークラブ）

移動手段

○スクールバス

単価契約を行い、土日にも運行するよう契約し、生徒の移動を保障した。その際、競技の違うクラブであっても、練習日を調整するなどして、スクールバス利用者率を上げるよう配慮した。事前把握した利用者数により、公共交通機関を利用した方が費用がかからない場合は、スクールバスの運行を取りやめるなど、適切な対応を行なった。

移動手段

○公共交通機関

路線バスを利用する際に、土日の活動時間が保障できるよう、路線バスダイヤについて調整できないか交渉し、若干ではあるものの、生徒が都合のいい時間帯に移動できるようダイヤ改正の協力を得ることができた。少人数で移動する場合は、単価の安い公共交通機関を利用して合同部活動に参加する生徒も多い。

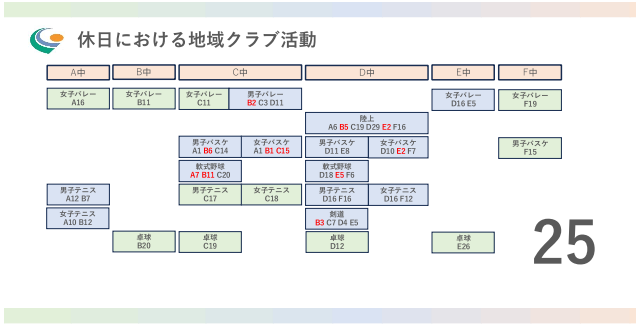
事務局運営の方法

○下呂市教育委員会 学校教育課に休日における部活動地域クラブ展開の事務局を設置した。

○クラブ指導者の任命、実績報告書の取りまとめ、謝金の支払い、生徒の移動費の支払い等について、教育総務課や学校事務職員と連携を図りながら運営した。

取組の成果

下呂市内６中学校におけるスポーツ部活動数４２部活が、土日の拠点校を中心とする合同でのクラブ活動を実施することにより２５部活動に減少。それに伴い、１つの活動団体は担当指導者数が増え、所属生徒数も増加。



今後の課題と対応方針

○顧問と土日の指導者の練習内容、活動計画等における連携体制の継続。

○年度ごとに所属生徒数が変わるため、どのような合同での活動が適切なのかを、毎年検討が必要。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

下呂市における部活動について、生徒及び教職員における諸課題は以下のようである。

＜生徒＞

・人数が少なく成り立たない部活動がある。
・試合形式練習等に支障をきたす場合がある。
・切磋琢磨の関係が築きにくい。
・専門的指導が受けられない場合がある。
・小さい学校では、部活動の選択肢が少ない。

＜教職員＞

・常に部活動の削減を求められるが行き詰まる。
・経験者を配置できない場合が多い。
・多くの部活動が顧問一人体制で休みづらい。
・人によっては、ストレス、多忙感、教材研究の妨げになっている。

こうした諸課題に対して、今年度から実施した施策は、上記の諸課題に対する下呂市型の地域クラブ展開となる新たな取り組みとして成果が得られた。

●成果の評価

下呂市全体として、明確なコンセプトの決め出しが重要となっている。下呂市では、６中学校全てにおいて、また、地域クラブ全体として以下のコンセプトを明らかにして活動を展開している。

＜コンセプト６つの柱＞

・生徒がやりたいことに挑戦できる。
・生徒が専門的な指導を受けられ、競技力などの向上が図れる。
・生徒の切磋琢磨できる環境が生まれ、社会性が養える。
・やりがいをもった指導者が充実感を味わえる。
・誰もが参加できる。（特に経済面）

「下呂市の子どもたちを下呂市の指導者全体で支える」という考えを共有し、上記コンセプトの理解をもとに地域展開することが、学校の枠を超えて生き生きと活動できる生徒たちを支える大切な要因となっている。

●今後に向けて

下呂市の部活動及び地域クラブ展開は、現在、平日と休日の二重構造となっている。各クラブの運営の仕方について、それぞれで細やかな検討が必要である。生徒の連盟登録等の事務的作業、平日と休日の連携の仕方などなど、課題に対して各クラブでの検討を重ねる必要がある。今後も、協議会や校長会、各クラブ指導者との協議を重ねながら、生徒に軸足を置き、現状に合わせた持続可能な下呂市型部活動地域展開の方策を進めていきたい。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

●生徒・保護者アンケート結果

Q.部活動（クラブ）などに積極的に取り組んでいる。
＜A中学校生徒アンケート結果＞
８４.７％
（４件法による肯定的評価）

Q 生徒達は部活動において一生懸命に練習している。
＜C中学校生徒アンケート結果＞
４.８（５件法による評価）

Q あなたは、部活動（クラブ）に熱心に取り組みましたか？
＜F中学校生徒アンケート結果＞
３.８（４件法による評価）

Q 目標をもって向かわせ、仲間のつながりを大切にした部活動ができている
＜F中学校保護者アンケート結果＞
３.４（４件法による評価）

●保護者の声

生徒数が年々減少している中、合同部活動での他校生徒との交流は、得るものが大きいと思います。今後も生徒数減少が続くかと思いますが、中学生のうちに多くの仲間と交流できるような教育活動をしていただけると社会に出てからも生きると思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

自宅では勉強を自主的にしたりしているし、部活動も休みの日に自主練したりとなかなか感心しております。何事にも、しょうがないって言葉を使わず、こだわってくれたら得るものも大きいと思います。これからもご指導、よろしくお願いいたします。

部活動（クラブ活動）は体験期間を長くする、転部しやすくするなどした方が子どもたちの将来に活かしやすいように思います。中体連の成績も大事かもしれませんが、貴重な中学校生活の3年間をもっと自分を知るための時間に使ってほしいと思います。また、ひいては自分にマッチした部活を選びやすくする方が中体連の成績も良くなるのでは無いかと考えます。

支援の必要な子に対しての支援が行き届いていないように感じます。また、担任制ではないので誰に相談したらよいかわからなく、連絡も少ないので誰に頼ればよいのかがわからない一年間でした。

△△方面のバスですが、夏休みの午前部活後のバスの出発時間が早すぎて乗れません。

地域クラブとクラブの境界が分かりづらく感じます。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【体幹トレーニング】



【地域クラブとして大会に参加】



【指導者研修会】



【全国・東海大会出場激励会（合同チームが出場）】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和２年		令和３～５年		令和６年	令和７年～
校長会にて今後の部活動にあり方について協議	▶ 合同部活動のあり方、生徒の移動方法の検討	▶ 地域移行検討協議会（仮）の組織化	▶ 合同部活動の実証検証、生徒移動手段の確保	▶ 市内全中学校での部活動地域展開	▶ 部活動地域展開の更なる充実

●ステークホルダー

＜運営＞
下呂市教育委員会、学校
＜協議会＞
校長会、教頭会、中体連、市スポーツ協会、市長部局

●経過

令和２年度、下呂市校長会にて、今後の部活動のあり方について検討した。それは、生徒数の減少や、学校規模の縮小による教職員数の減少等により、部活動が成り立たなくなってきたからである。そこで、令和３年から令和５年にかけて、校長会にて検討を重ね、下呂市部活動のコンセプトを設定するとともに、合同部活動の試行、指導者バンクの作成、指導者間の連携、生徒の移動手段の確保、小学校教員の部活兼務者の配置、各種調査、岐阜県や飛騨地域における地域クラブ推進会議への参加、指導者研修会（前後期１回ずつ）の開催等、体制づくりを徐々に進めてきた。

●実施内容

令和６年度は、下呂市内６中学校全てにおいて、休日の部活動の地域展開を開始した。休日の活動の指導者は教職員と社会人指導者がほぼ半々となり、連携を密に取りながら活動を進めてきた。また、どの指導者も部活動ガイドラインに従った適切な指導を行うため、指導者の指導力向上を図るための研修会を年３回実施した。研修会の内容は、「中学生への指導のポイント」、「栄養学（食育）」、「中学生への指導における心理学講座」など、教育的指導の力量向上を意図して研修を設定した。

●実施にあたって生じた課題

保護者アンケートで、生徒の移動について公共交通機関ではどうしても若干の時間的ズレが生じるという意見があった。できるだけ適切な時間に行き来できるよう活動時間を設定する等の配慮が必要である。

●実施内容、工夫した点 等

指導者の研修会は、勝利至上主義ではなく、教育的指導の観点を踏まえての研修を企画・開催した。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

R3	R4	R5	R6	R7	R8～
・下呂市部活動構想の学校関係者に周知 ・下呂市活動合同練習要綱による合同練習の拡大 ・下呂市モデルの第一歩（B中学校とスポーツクラブ） ・移動手段にスクールバスを活用 ・社会人指導者に加え部活動指導員配置 ・小学校教員の部活動兼務者の配置	・合同部活動をさらに推進し、やりたい部活動を維持 ・指導者バンクを作り、教職員と外部指導者を下呂市部活動指導員登録し、市教委から委嘱 ・生徒の移動手段を確保し、スクールバスの定期運行や、公共交通機関を利用した場合の市負担	・各種調査（中２生徒、教職員）の実施、中体連理事会との連携会議、校長会での説明、部活動地域移行連携会議の開催 ・岐阜県、飛騨地区における地域クラブ活動推進会議に参加 ・指導者研修会（前後期２回）を開催	・市内６中学校全てにおいて土日の部活動地域クラブ展開を開始 ・協議会にて地域展開の問題課題を協議、次年度につなげる検討会 ・学校、生徒、保護者、指導者より意見を募りより良い指導体制の更なる修正	・地域展開初年度での問題課題について、修正・実践（指導謝金、生徒の移動、総合型地域クラブとの更なる連携等） ・部活動地域展開のコンセプトの再確認	・下呂市スポーツ協会との協議により、将来的な運営主体について協議 ・生徒の実態にあったクラブ活動展開の更なる充実 「生徒にとって有益であり持続可能な部活動のあり方」を軸にした下呂市型地域展開